

令和元年度 第二回学校運営協議会



令和元年11月23日
横浜市立伊勢山小学校

学校 教育 目標	○あいさつ(地域社会の一員としての自覚・礼儀・感謝・コミュニケーション)【公】【開]
	○ともだち(生命尊重・共生・人権)【徳】
	○チャレンジ(自己肯定感・学力向上・体力向上)【知】【体】
	○やくそく(規範意識・人の話を聞く・時間を守る・公共心・食育)【徳】

学校 概要	創立 41 周年	学校長 持丸 隆一	副校長 足立 一明	2 学期制	一般学級: 12	個別支援学級: 3
	児童生徒数: 313 人	主な関係校: 中和田中学校、泉ヶ丘中学校、和泉小学校、中和田小学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<協働して課題解決していく力> <自分づくりに関する力> <自らの手でよりよい社会を創り上げていく力>	中和田中学校 中和田小学校 和泉小学校 上飯田小学校	○自ら進んで挨拶ができる児童生徒 ○地域の一員として行動できる児童生徒 ・「人権」をテーマにしたブロック授業研究会を年に二回設定し、各教科において、テーマを意図した授業を展開する。 ・児童生徒交流日やサマーチャリティコンサート等を活用して、児童と生徒の交流を図る。 ・中学校の先生を招いて、外国語科の授業研究会を行う。

中期 取組 目標	○「主体的・対話的で深い学び」を展開するために、教師の指導技術の向上、学習規律の確立、課題解決に向けて粘り強く積極的に自ら学び続ける子どもを育て、学力向上を目指します。【知】○保護者・地域社会との連携のもと、物事の善悪をきちんと判断し、社会のルールを守る規範意識や礼儀を大切にできる態度を育て、相手を思いやり、尊重する心や態度を育てます。【徳】○保護者と協力し、心と体の健康に向かって望ましい生活習慣を身に付け、自ら健康づくりに取り組む子を育てます。【体】○共に生きようとする心を育てるために、学校運営協議会との一層の連携を図り、地域に愛着をもち、将来的に地域の担い手ともなる子を育てます。【公】○「答えのない問題」に最善解を導く総合的な力を養い、自分の未来に夢と希望をもち、力強く生きようとする子どもを育てます。【開】
----------------	--

重点取組分野	具体的取組
確かな学力 担当 教務部・学力向上プロジェクト	①「主体的・対話的で深い学び」のある授業を目指して研修を充実し、授業力の改善に取り組みます。②学力向上プロジェクトを立ち上げ、学習状況調査の結果を分析し、授業改善に努めます。また、学校全体で教材を統一し、安心して学べる環境を整え、子どもたちの確かな学力を育てていきます。
豊かな心 担当 教務部	①重点研究を中心として、誰もが安心して豊かに生活できる学校づくりを目指し、公正、公平、平等に基づく社会正義について考えさせ、いじめがおこりにくい学校を作っていきます。②道徳の学習の時間を要として、自分を知り、他者や社会との関わりの中で相手を思いやり、尊重する態度を育てます。
健やかな体 担当 教務部・体育部	①「ロング昼休み」を継続し、児童が伸び伸びと外遊びができる環境と時間を保証して、体力の向上を図ります。②食育推進校として、家庭科や保健の学習を中心に、食の大切さを子どもたちが自覚できるようにします。③安全に対する意識を高め、けがの予防に努めます。
人間関係形成 担当 教務部・特活部	重点研究(特別活動)や道徳の時間等を中心に、様々な日常的な問題、課題を自分事として捉え、話し合いで解決していくことを通して、社会的マナー、規範意識や相手を尊重する態度・姿勢を大切にできる子どもを育てます。
学校運営協議会 担当 教務部	①年間3回、学校運営協議会を開き、子どもたちの学力や学習状況、生活意識や態度等について幅広く議論することで学校運営についての参画を高めます。②学校を開く週間では、校内子ども会議に運営協議会委員として参加し、直接子どもたちと対話する場を設けます。
特別支援教育 担当 特別支援教育委員会	①個別支援学級の教育環境改善をさらに進め、個の特性に応じた指導ができるようにしていきます。②一般学級、個別支援学級共にICTの積極的な活用を推進すると同時に学びのめあてを明確化し、見通しをもち学べる支援を行います。
自分づくり教育 (キャリア教育) 担当 キャリア教育担当	生活科や社会科、総合的な学習の時間を中心とした地域の人々や様々な職業の方との出会いを通して、身近な人の仕事や役割、生き方があることに気付き、地域や社会と自分のつながりを実感するなかで、自分や地域の良さや役割を自覚することができるようにします。
社会に開かれた 教育課程 担当 教務部	①広報部の活動を充実させ、学校だよりやホームページを通して、児童の活動や学校の様子を掲載することで、学校や子どもたちの取り組みを公開していきます。②学校説明会では、学校の取組が分かりやすくなるような工夫を図り、保護者が学校の方針や運営の様子を把握し参画しやすくします。
いじめへの対応 担当 教務部・児童指導専任	①法令に則り、「いじめ」を認知し、情報を共有できる体制を強化します。②校内子ども会議を設定し、社会正義が育つ話し合い活動の様子を授業公開し、地域の人も参加して対話ができる場をつくります。③学校カウンセラーをはじめ、さまざまな外部機関との連携を密にし、適切に対応します。
人材育成・ 組織運営 (働き方改革) 担当 教務部	①経験豊かな教員の助言のもと、中堅教員がミドルリーダーとしてリーダーシップを発揮し、経験の浅い教員を育てる組織を作ります。②学校規模や職員構成に応じた組織の在り方や業務内容の改善を図る。③チームで仕事をする中で会議を減らし業務内容の精選を図っていきます。

中期学校経営方針に基づいた今年度の取組について 経過報告

確かな学力・・・①「主体的・対話的で深い学び」のある授業を目指して研修を充実し、授業力の改善に取り組みます。②学力向上プロジェクトを立ち上げ、学力状況調査を分析し、授業改善に努めます。また、学校全体で教材を統一し、安心して学べる環境を整え、子ども達の確かな学力を育てていきます。

前年度と今年度の学校を開く週間の結果比較

平成30年度 質問項目	はい	いいえ
授業には、子ども達が主体的に学べる工夫が準備・用意されていた。	97.9%	2.8%
授業の中で、子ども達同士が話し合っ意見交換したり、考えを高めたりしている場面が見られた。	89.6%	10.4%
授業の最後には、その時間の学習を振り返る時間が確保されていた。	89.6%	10.4%



令和元年度 質問項目	とてもそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない
授業の中で今日の学習が明示され、子どもが今日何を学ぶかを理解して授業に臨んでいた。	57.3%	41.3%	1.3%	0%
	98.6%		1.3%	
授業の中で、子ども達同士が話し合っ意見交換したり、考えを高めたりしている場面が見られた。	52.7%	47.3%	0%	0%
	100%		0%	
授業の最後には、その時間の学習を振り返る場面が見られた。	41.1%	52.1%	6.8%	0%
	93.2%		6.8%	

・主体的な学びについて・・・学校評価の結果を見ると、同内容の項目について、前年度に比べて「はい」が97.9%から98.6%と僅かに上昇～同程度の評を維持して

いることが分かる。授業の際にそれぞれの教師が、子ども達を引き付ける課題提示や展開の工夫を行っていることが分かる。明確な課題提示や具体物・子どもの心的距離が近いものをから学習を始めるなど、どの子どもも授業に内容に自然に入っていけるような展開がなされていた。

・対話のある学習について・・・学校評価の結果から、前年度に比べ「はい」が89.6%から100%と大幅に上昇していることが分かる。これは、前年度より重点的に行ってきた「主体的・対話的で深い学びのある授業づくり」の中で一番の大きな成果であると言える。どの教師も授業の中で子ども達が話し合う場面をつくり、子ども達自身で学びを深めていく展開・発問がなされたということである。それぞれの学級に応じた話し合い方法の工夫や習慣化がなされている。

- ・ 振り返りの重要性について
- ・ 振り返りは、その一時間の授業の中で子ども達が自分が今日何を学んだのかを確認する大事な場面である。学校評価の結果を見ると「はい」が89.6%から93.2%に上昇していることが分かる。これまで教科学習の場面だけでなく、総合的な学習の時間や行事等でも学校全体でふりかえりカードを作成・活用することで自分の学びの実感を大切にすることをやってきた成果といえる。ふりかえりを大切にすることで自分の学びを再認識するだけでなく、積み重ねが視覚化されることで自信にもつながるだろう。一方で「いいえ」の回答が「6.8%」あったことを受け、より一時間ごとの振り返りを習慣することを学校として徹底していきたい。

授業改善について

話すこと・聞くこと



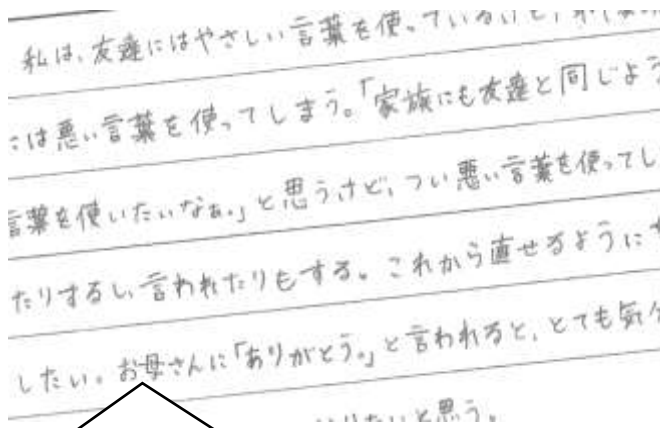
各学年の発達段階に応じて、「友達の前で自分のことを話す」「友達の話聞いて質問する」「共通の話題について話し合う」「司会を立てて議論をする」などの場面を意図的に取り入れ、各学習・朝の会等で日々行われている。

学びの意欲付け



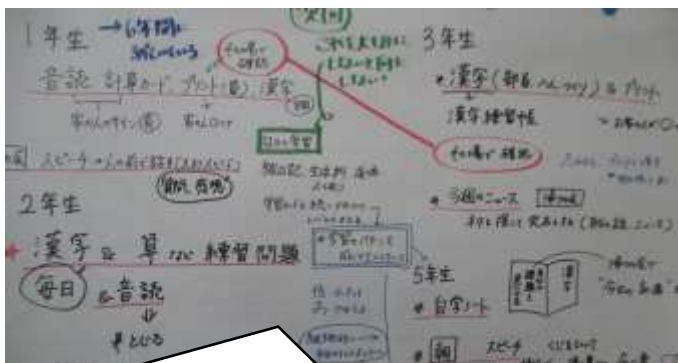
毎時間の学習課題を明確にすることや、具体物・子どもの心的距離が近いものを学習に使っていくこと・「〇〇に発表しよう・見せよう」など学習の目的をつくるなど、その時に応じた準備や用意を書く教師が考えて

ふりかえり



学習の終末には、子どもたち一人ひとりが振り返ることができるような取組を行っている。ノートに記入・発言・振り返りカードの活用など、それぞれの学年や教科・場面に合った方法で振り返りを行っている。

宿題やドリルの系統性



低学年では、基礎基本の定着を図るためのもの・高学年では、自身でめあてをもって学びを深められるものを学校として系統立てて宿題を出している。音読を行うこと・毎日の宿題パターンが決まっていることを校内で共通項目として取り組んでいる。ドリル等も同様に低・中・高の発達段階に応じたものを選定して系統立てて取り組んでいる。

豊かな心・・・重点研究を中心として、誰もが安心して豊かに生活できる学校づくりを目指し、公正、公平、平等に基づく社会正義について考えさせ、いじめがおこりにくい学校をつくっていきます。②道徳の学習の時間を要として、自分を知り、他者や社会との関わりの中で相手を思いやり、尊重する態度を育てます。

人間関係形成・・・重点研究(特別活動)や道徳の時間等を中心に、様々な日常的な問題、課題を自分事として捉え、話し合いで解決していくことを通して、社会的マナー、規範意識や相手を尊重する態度・姿勢を大切にできる子を育てます。

今年度、重点研究として、「特別活動(主に学級会)」を軸とした子ども達が様々な学校で起きる問題や課題を自分事として考え、公正・公平・平等の視点から話し合い、解決していける子ども達を育てる取組を行っています。

学校HPより

6年生が動き始めました！！

5月の記事です。

最高学年として、創立41年目の伊勢山小学校をより良い学校にしていこうと今年も活動を始めました。最高学年として1か月を過ごす中で、学校生活上の問題を見つけ、解決しようと動き出しました。まず見つけた問題は、給食返却後の階段や廊下の汚れです。食器を返す際に食器に残っていた汁などがこぼれてしまい廊下や階段が汚れてしまうという問題です。大人が解決すれば何でもない問題ですが、こういう身近な問題に気づき、知恵を出し合い、解決していく子どもを本校では育てたいと思います。これも本年度の本校の重点的な取り組みです。6年生の活躍に乞うご期待です。



6年生が校内の課題を見つけ、より良い学校へしていこうと動いています。それぞれのクラスでどの様にしていけば課題を解決していけるかを学級会で話し合い、「一年生にとって」「学校みんなにとって」色々な立場でものを考えながら、学級みんなで意思決定をして活動を進めてきました。

伊勢山の子どもは素晴らしい！

11月の記事です。

水曜日に泉区の一斉授業研究会がありました。昨年度の社会科に続き、今年度は学級活動の授業公開をしました。2年生では「係の活動をお互いに評価し合い、もっと盛んな活動とするため」の話し合いを。3年生では、「もっと仲のよい仲間となるためのゲームは何がふさわしいか」を話し合い。5年生では、「学習発表会に向けて、もっと多くの人に関心を持ってもらうための方法」を話し合いました。どのクラスの児童も自分の考えをきちんと話し合いに臨み、話し合う中で考えを深め、よりよい解決策を考えました。本校が進めている公平・公正・正義という視点からも考えることができ、60名を超える参会者から、「伊勢山小学校の子どもたちは素晴らしい」という評価をいただきました。



泉区の全体で行われる研究授業でも、学級会での授業公開を行いました。それぞれの学級で子ども達が課題に感じていることについて話し合い、それぞれの立場や考えを尊重しながら議論する場面がみられました。

9月の代表委員会で、ステップアップ! ♪

9月20日（金）に代表委員会が行われました。今回の議題は、運動会の招待状の内容についてでした。はじめは、「自分のことを伝えたい」「自分が頑張ったことを伝えたい」と「自分」のを中心に話していましたが、話し合いを通してステップアップする場面がありました。ある学年から「運動会は学校全体、みんなで作るものだ」という意見が出て、そこからお家の人に「他の学年の頑張っていること」や「伊勢山のみんなで運動会をつくっているよ」ということを伝えたいという話になりました。今回の話し合いで、“伊勢山小全員で”という思いが高まりました。みんなで作る運動会をご期待ください。そして、子どもたちの思いが詰まった招待状を楽しみにしててください。♪



代表委員会の様子

・それぞれの学級で小さな問題についても、先生が解決せず、子ども達が話し合って解決することで、活動を大事にするようになった。また、様々な立場の人を想定した話し合いや、色々な考えを聴くなかで「本当に大切なこと」「みんなにとって良いこと」を考えられるようになり、その考え方が、学校のことを話し合う代表委員会にも波及しており、良い効果が生まれてきている。また、話し合いの中で「この言い方では相手に伝わりにくい」「反対という言い方ではなく、心配という言い方を使ってみよう。」など、普段のコミュニケーションにもつながる場面が見られるようになってきた。

